

オープン カレッジ

2019年3月に世界最大で最新のクルーズ客船であるシンフォニーオブザシーズ(全長362m、22・8万ト、17デッキ、乗客5494人、乗員2175人、18年3月就航)のマイアミ港発、ホンジュラスのロアタン、メキシコのコスタ・マヤとコスメル、バハマのナッソーを巡るカリブ海クルーズに乗船した。

米国の最新クルーズ客船

ダーはもちろん、空中をロープで渡る16階から6階へのスライダーといったスケールの大きなアトラクションがある。また、船尾のプール付きシアターでのアクアショーは、約5階の高さからの迫力ある飛び込みやワイヤーアクションによる空中遊泳、綱渡りが何度も繰り返される。

船体の巨大化により船内には、高級スイートルームから内側窓なしまでさまざまな客室があり、1室単位で購入することから子どもは無料で、安い部屋であれば1人あたり1泊1万円程度である。その上、食事付きショーやアトラクションも含まれていることから、家族で楽しむ手軽なレジャーとなっている。割引制度

日本では「豪華クルーズ客船」のイメージが強かったが、外国客船の寄港増加でテレビをはじめマスコミで紹介される機会が増えたことにより、シンフォニーオブザシーズのようなカジュアルクラスの人気が高まっている。ドレスアップして食事をしている人もいればラフな格好で食事をしている人もいて、楽しみ方はさまざまである。

可能性

も充実しており、リピーターや船内で次回の申込みをクルーズ客船は1週間程度の長期の旅行であることがネックであるが、ワークライフバランスの見直しや年次有給休暇の取得義務付けで長期休暇が取りやすくなり、気軽なレジャーであることが浸透して「乗らず嫌い」が解消されれば市場拡大の好機である。



(写真はメキシコのコスタ・マヤに寄港したシンフォニーオブザシーズ)

日本も市場拡大の

ルあるアトラクションや迫力あるショーを楽しむ「海のテーマパーク」となっている。シンフォニーオブザシーズにはプールのスライ



梶山女学園大学
現代マネジメント学部准教授
水野 英雄

みずの・ひでお 国際経済学、貿易政策、経済政策。名古屋大学大学院経済学研究科博士課程後期課程退学。1968年生まれ。